

Power Platformを 導入するにあたってのポイント

プロアクシアコンサルティング株式会社

アジェンダ

Power Platformとは

ノーコードでの開発(デモ)

様々なデータソース

Power Platformを利用できるOfficeのライセンス

Power Platform導入検討のポイント

Power Platformとは

Power Platform とは

データの収集・解析・予測やチャットボットをローコーディングで実現するプラットフォーム

Power Apps

ビジネスアプリを
ローコードで作成



Microsoft Power Platform

The low code platform that spans Microsoft 365, Azure, Dynamics 365, and standalone apps.

Power Virtual Agents

AI を利用したチャットボット
の構築

Power BI

データの整形
・可視化・共有ツール



Power BI
Business analytics



Power Apps
App development



Power Automate
Process automation



Power Virtual Agents
Intelligent virtual agents



Power Pages
External-facing
websites

Power Pages

簡単にビジネスWebサイトを
すばやく構築

Power Automate

アプリケーション・サービスを
繋げて、ワークフローを自動化



**Data
connectors**



AI Builder



Dataverse

ノーコードでの開発 (デモ)

デモ内容

Excelデータからノーコードでアプリ作成

本デモアプリでは、Excelで保持しているデータをテーブル化しノーコードでそのデータをメンテナンスするアプリケーションを作成します。

様々なデータソース

Power Platform利用できるデータソース

	Microsoft Dataverse	◆
	MySQL	◆
	OneDrive	
	OneDrive for Business	
	Oracle Database	◆
	PostgreSQL	◆
	Salesforce	◆
	SharePoint	
	SQL Server	◆

Power Apps、Power Automateでは、Microsoft製かどうかを問わず、様々なデータソースを利用できるように、データソース接続用のコネクタが現在300程度用意されています。

主なコネクタ

- ・SharePoint
 - ・SQL Server
 - ・Oracle
- など

Power Platformを利用できる/できない Officeライセンス

Power Apps、Power Automateを利用できるプラン

Office 365 E1	Office 365 E3	Office 365 E5
法人向けサービス(メール、ファイルの保存と共有、Office on the web、オンライン会議とインスタントメッセージングなど)。Office アプリは含まれない。	Microsoft 365 Apps for enterprise と Office 365 E1 に含まれるすべての機能に加え、セキュリティとコンプライアンスの機能が含まれる。	Office 365 E3 のすべての機能に加え、セキュリティ、分析、音声通信の高度な機能を利用できる。
¥1,090/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新	¥2,500/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新	¥4,130/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新

Power Apps、Power Automateを利用できるプラン

Microsoft 365 Business Basic	Microsoft 365 Business Standard	Microsoft 365 Business Premium
・参加者最大300人でチャット、通話、会議 ・Webとモバイル版のOfficeアプリ ・1TBのクラウドストレージ ・法人メール ・標準のセキュリティ ・電話/Webサポートをいつでも利用可能	Business Basicの内容すべてに加えて ・デスクトップ版のOfficeアプリ（プレミアム機能付き） ・ウェビナーを簡単に開催 ・出席者登録とレポートのツール ・顧客の予約を管理	Business Standardの内容すべてに加えて ・高度なセキュリティ ・アクセスとデータの制御 ・サイバー脅威の防止
¥650/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新	¥1,360/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新	¥2,390/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新

Power Apps、Power Automateを利用できるプラン

Microsoft 365 E3	Microsoft 365 E5
クラス最高の生産性向上アプリに大企業のための中核的なセキュリティとコンプライアンスの機能を組み合わせた。	クラス最高の生産性向上アプリに大企業のための中核的なセキュリティとコンプライアンス、音声通信、分析の機能を利用できる
¥3,910/ユーザー(月額) 年間契約	¥6,200/ユーザー(月額) 年間契約

Power Apps、Power Automateを利用できないプラン

Microsoft 365 Apps for business	Office 365 F1	Microsoft 365 F1
・デスクトップ版のOfficeアプリ: Outlook, Word, Excel, PowerPoint, OneNote ・ファイルを保存して共有するためのOneDriveクラウドストレージ1TB(ユーザー1人あたり) ・1ラインセスでユーザー1人あたり5台のモバイルデバイス、5台のタブレット、5台のWindows PCまたはMacにフル機能のOfficeアプリケーションをインストールできる。 ・アプリが自動的に更新され、毎月新しい機能が追加される。 ・Microsoft による電話とWebでのサポートを24時間いつでも利用できる	・WebとモバイルのOfficeアプリ ・1つのハブでチームワークを実現する Microsoft Teams ・つながり、情報を整理するための法人メール ・5層のセキュリティと監視でデータの安全を守る	現場担当者が最高の仕事をするための力となる、生産性向上アプリとクラウドサービスを集めた。
¥900/ユーザー(月額) 年間サブスクリプション 自動更新	※現在はOffice 365 F3へ移行	※現在は Microsoft 365 F3へ移行

Power Platformのライセンス 契約プラン(2022/3月現在)

サブスクリプションプラン		従量課金プラン
単一アプリの実行	無制限アプリの実行	アプリごとのプラン
追加アプリごとのライセンスを柔軟にスタックし、単一アプリを実行するユーザーごとにライセンスを割り当てるビジネスに最適	実行する必要があるアプリの数に関わらず、ユーザーごとに1件ずつライセンスを割り当てるビジネスに最適	その月にユーザーがアプリを実行した場合にのみ、アジャイルに支払う企業に最適
¥540 単位 ユーザー/アプリ/月	¥2,170 単位 ユーザー/月	¥1,120 単位 ユーザー/月

Power Platform 導入のポイント

- 目的を明確にする
 - ✓なんとなく無償で使えるから使う、はやめましょう。
 - ✓フェーズに合わせて、やりたいこと、困っている事、を見定めてPower Platformを適用していきましょう
- 小さく始める
 - ✓最初は小さなものから作っていきましょう
- なんでもPower Platformでやろうとしない
 - ✓ローコード開発のプラットフォームなので出来ない事、苦手なこともたくさんあります
- ライセンスを購入するか
 - ✓有償ライセンスの有無で出来る事や開発効率が大きく変わります。しっかり情報を収集して判断しましょう

なんでもPower Platformでやろうとしない

- ・セキュリティをどこまで考慮する必要がある？
- ・扱うデータ量はどのくらい？
- ・データの扱い方は？

検索の仕方はどのようなものが必要か？(部分一致が必要？)

緻密なトランザクションが必要？

よりきめ細かい処理が必要？

セキュリティの考慮

- ・細かいセキュリティ設定が必要か？

細かいセキュリティ設定が必要

→ 有償のDataverseやSQL Serverなどの検討が必要

扱うデータ量

- ・大量データが必要か

大量データを扱うことのできるデータソースが必要
データソースによって一度に対象とできるデータ量が
異なったりします。

大量データを扱う場合には、パフォーマンスの考慮も必要

- 有償のDataverseやSQL Serverなどの検討が必要
- Power Platform以外を検討

データの扱い方は？

- ・緻密なトランザクション処理が必要
 - 複数テーブルにまたがったトランザクションなど
 - カスタムコネクタの実装
 - JavaScriptの利用による実装
 - Power Platform以外のソリューションの検討

フェーズを意識して段階的に導入

フェーズ1【導入最初期】

目的：紙で回覧している申請書類を電子化したい

対象：情報システム課内の申請書類群

有償ライセンス：無し

Power Platformを適用する判断基準：

- ・ データ量が多すぎるものは今回対象外
- ・ 個人情報に該当するものは今回対象外
- ・ 緻密なトランザクション処理が不要なものは対象外
- ・ 高度な検索処理は後日実装とする



最終フェーズ【アプリケーション内製】

目的：アプリケーション内製によるDX推進

対象：社内全部署からの要望

有償ライセンス：一部あり

Power Platformを適用する判断基準：

- ・ 年間2000件を超える場合はDataverse(有償)の使用を考慮
- ・ 個人情報を扱う場合はDataverseを使用
- ・ 緻密なトランザクション処理が必要な場合はカスタムコネクタの外注を提案する
- ・ 高度な検索が必要な場合は開発時間がかかることを伝える

Dataverseを追加ライセンスなしで利用

Dataverse for Teams

Microsoft 365のライセンスがあれば利用可能。
ただし、Dataverseとは以下のような違いがあります。

	Dataverse for Teams	Dataverse
Power Apps/Dataverse 環境	チームごとに1つ	無制限
最大サイズ	100万行または2GB	4Gまたは、それ以上
Dataverseへのアップグレード	有効	—
セキュリティ	既定のテンプレートによる 行レベルの制御	詳細設定可能な行レベルの セキュリティ
高度なデータ型 (顧客、複数のトランザクション通貨)	番号	Yes
非リレーショナル記憶域(ログ)	無効	有効
マネージド Data Lake	無効	有効
詳細検索と Dataverse 検索	無効	有効
Mobile Office	無効	有効

ご清聴ありがとうございました